

【別添2】

令和5年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立斐太高等学校

学校番号

57

I 自己評価

1 学校教育目標	豊かな心と主体性を育み、幅広い知識と高い学力を身に付けることで、多様な社会に対応できる創造性豊かな人材を育成します。		
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー (GP)	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー (CP)	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー (AP)
	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯にわたり探究心を持って自ら学び続け、問題解決や新しい価値の創造に取り組むことができる生徒 ・多様性を尊重し他者と協働することができ、国際社会の持続的発展や平和に貢献することができる生徒 ・地域社会の発展を考え、答えが見えない課題に対してもグローバルな視点からアプローチすることができる生徒 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人の興味・関心が引き出され、深い学びと進路実現を可能にするバランスの取れたカリキュラムの編成とICTの活用や少人数によるきめ細かな指導 ・地域や社会と連携した探究的な学習や体験活動等を通じて、教科横断的な学び、協働的な学びを推進するとともに柔軟な思考力を醸成 ・生徒を主体として運営される様々な行事を通して創造的企画運営力やリーダーシップ、チャレンジ精神を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲と知的好奇心を備え、向上心を持って学び続けることができる生徒 ・自ら進んで人と関わる中で他者との対話を大切にして自他の個性を認めるなど、仲間と協力して物事に取り組める生徒 ・広く社会に目を向けることができ地域や世界の課題をジブンゴト（自らの課題）として捉えることができる生徒

3 評価する領域・分野	◇教務		
4 現状の分析	○生徒・保護者とも、すぐメールの有効活用に関する項目の評価が高く、学校からの連絡は確実に伝わっていると思われる。 ▲学習活動の中心である授業と評価について、生徒は評価面、保護者は授業面の項目で評価が若干低めに出ている。		
5 学校の抱える課題	◇幅広い学力層に応じた少人数制・習熟度別授業の行い方		
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の深い学びと進路目標を実現できるよう教育活動を見直す。 ・職員研修や公開授業で授業研究を行い、学んだことを授業等に生かして生徒に還元する。 		
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標		
<ul style="list-style-type: none"> (1) 進路決定や進路実現に効果的なカリキュラムを研究し、新たなカリキュラムを作成する。 (2) 大学入学共通テストや新教育課程など、変わりゆく教育環境の中で、これからの社会を担う生徒に求められる力を伸ばすため、授業内容や形態、評価の研究を行い、日々の授業の改善を図る。 (3) 職員が生徒の学習や生活を適切に支援する力を付けるため職員研修を充実させる。 	<ul style="list-style-type: none"> (1) 新カリキュラムの作成 (2) 授業公開週間での教員間の交流結果 授業アンケートの実施と分析 (3) 月1回の職員研修の実施 		
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価	
<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度入学生のカリキュラム作成 ・授業公開週間（7月） ・授業アンケートの実施（9・10月） ・職員会議における職員研修の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ① 現状に合ったカリキュラムを作成できたか。 ② 生徒・保護者対象アンケートの結果で状況の改善や満足度の向上がみられるか。 ③ その時々課題や問題の解決に向けた研修を実施することができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D 	

12 成 果 ・ 課 題	<p>○教育課程委員会（４・５・６月）を開催し、現行カリキュラムの課題や他の進学校のカリキュラムを参考にしながら、来年度以降のカリキュラムを作成した。</p> <p>○授業公開週間で他の教師の授業を参観したり、授業アンケートの結果を教科毎に分析することで、今後の授業改善に繋がることが期待できる。</p> <p>▲職員研修について、ICT・生徒指導・教育相談など様々な内容を実施することができ、教員の資質向上に役に立つ内容だったが、勤務時間を超過することがあり、実施方法・回数などの検討が必要である。</p>	<p>総 合 評 価</p> <p>A B C D</p>
13	<p>来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カリキュラムについては、生徒や大学入試の状況を見ながら、今後も検討を続けていく。 ・新３年生も観点別評価を行うため、各教科での検討は今後も続ける必要がある。 ・職員研修は教員の資質向上のためにも必要であるため、実施内容・回数などを検討し、より実のあるものにしていく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オープンキャンパス、1日入学の際に、卒業生と意見交流できる場を増やしていけるとよいのではないか。 ・職員研修などを利用して、学校運営や教材研究などについて職員間の交流をすることで、業務軽減などに繋がれるとよい。 ・総合型入試など多様化する入学試験に対応できるよう、探究学習を充実させるようなカリキュラムを編成できるとよい。
--

3	評価する領域・分野	◇ 進路支援	
4	現状の分析	○ 進路情報の提供は行うことができている。 ▲ 生徒の進路希望に沿った適切なアドバイスが求められている。	
5	学校の抱える課題	◇ 新課程入試に向けた指導体制の構築	
6	今年度の具体的かつ明確な重点目標	・キャリア教育に力を注ぎ、主体的に進路を考えられるサポート作り ・多様な入学者選抜方式に対応できるような支援体制の構築	
7	目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 外部から講師を招いて出前授業やガイダンスを開催したり、職業体験をする機会をできるだけ設けたりして、生徒が進路選択を考える機会を積極的に作る。		(1) 各プログラムでの生徒のアンケート結果	
(2) 総合型選抜、学校推薦型選抜に向けた職員研修を実施するとともに、確かな学力を築くための更なる学習支援体制を構築する。		(2) 総合型選抜や学校推薦型選抜などでの合格状況	
(3) 新課程入試に向けた情報収集に努め、関係部署と連携を図りながら対策を練る。		(3) 外部模試などの結果	
9	取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> 従来の学部学科説明会やインターンシップなどに加え、県職員仕事説明会の実施 ふれあい看護体験や飛騨メディカルハイスクールなど外部主催の体験活動への参加の呼びかけ 教員対象の小論文及び面接指導講座の実施 		① 参加者の主体的な進路選択に役立てることができたか。 ② 分野の偏りをなくし、幅広い情報提供ができたか。 ③ 受験指導に役立てることができたか。	㊤ B C D ㊤ B C D A ㊤ C D
12	成果	総合評価	
課題	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路支援部を中心に実施した取組に生徒は自己の進路目標に合わせ積極的に参加してくれた。事後アンケートからも生徒の進路選択に役立てられたことがうかがえた。 ○ 多種多様な進路選択に対応できるよう、外部主催の活動を分野に偏ることなく案内することができた。 ▲ 国公立大学における共通テスト前の総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者数は昨年度並みだった。教員対象の講座で教員のスキルアップは図れたが、その成果を実感するまでには至らなかった。 	総 合 評 価 ㊤ B C D	
13	来年度に向けての改善方策案	<ul style="list-style-type: none"> ・校外の活動に加え、校内の取組をもっと進学に生かせるよう、活動内容の見直し、他分掌との連携を深めていく。 ・来年度から始まる新課程入試に向けて、指導力の向上を図っていく。 	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】 <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップ等を通して職業を知る機会、地元の企業を知る機会、地域の大人と関わる機会を作ってほしい。 ・目指す大学のOB・OGと交流する機会があるとよい。 ・国公立大学の共通テスト前選抜を含む多様な入試方法についての情報提供を充実させてほしい。 ・進路目標に合わせ、生徒が積極的に進路に関わる取組に参加していたのはよかった。
--

3 評価する領域・分野	◇図書広報	
4 現状の分析	○図書：コロナによる制限もなくなり、生徒への読書支援、学習支援を行っている。 ○広報：アンケートでは、ホームページでの情報の伝達について高い評価をいただいている。 ▲図書：図書館をよく利用する生徒と利用しない生徒との二極化が進んでいる。	
5 学校の抱える課題	◇図書館利用者数の伸び悩み（生徒の活字離れ） ◇外部に向けた本校の魅力の発信	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・図書：生徒を中心とした図書委員会活動を支え図書館の環境を整える。 ・広報：生徒・保護者への情報伝達にとどまらず、広く本校の魅力を伝える。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 図書：生徒の読書活動を促すために、行事等との連携を図る。また、教員向けの図書館便りを発行するなど教職員にも図書館の利用を働きかける。 (2) 広報：他分掌等とも綿密に連携し、時宜を得た広報、情報提供活動に取り組む。	(1) 図書：各クラスの図書の貸出し数、図書館の利用頻度の確認。 (2) 広報：ホームページの閲覧者数。本校への入学希望者数。	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・図書：文化祭、年末（クリスマス）でのイベント実施など、図書委員会の活動を中心とした図書館のPR。授業等での図書館の活用を推進した。 ・広報：「学校案内パンフレット」の作成。本校生徒の活躍をホームページ上で紹介した。	① 図書：生徒を中心に運営できたか。 ② 図書：図書館の積極的な使用がなされたか。 ③ 広報：効果的なPR活動ができたか	A B C D A B C D A B C D
12 成果課題	○図書：司書の支援のもと、図書委員による図書館のPR活動を企画・運営することができた。 ○広報：生徒の様々な活動の様子を、本校ホームページの「斐高ニュース」での記事として頻繁に発信、紹介することができた。「ふるさと教育週間」にともなう公開授業では、昨年より多くの方に来校していただくことができた。 ▲読書活動の推進。図書館利用者数の増加。	
13 来年度に向けての改善方策案 ・図書：生徒が読書に親しむことができるより良い図書館の環境を作る工夫。職員に対しても図書館利用の案内、呼びかけを行う。 ・広報：ホームページの内容、提示方法等についてさらに改良をすすめる。新たな広報手段の検討。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

【意見・要望・評価等】 ・図書館利用者減少や利用の促進について、紙以外の媒体の検討、他校の状況を参考にすることを行ってもよいのではないか。 ・図書館で本に親しむ時間的余裕も少なくなっているのではないか。 ・生徒のFRHの取り組みや進路選択と結びつけた読書体験の提供もあるのではないか。 ・ホームページがスマートホンでも閲覧しやすくなった。 ・ホームページで様々な内容を紹介、発信されていて良い。

3 評価する領域・分野	◇生徒支援	
4 現状の分析	<p>○生徒の自主的な判断を促す指導により、マナーや社会規範を自ら必要なものと捉え、節度を持って行動することができている。</p> <p>○様々な生徒の悩みや困りごとに応じて、外部との連携も含めた丁寧な対応が取れている。気軽に相談できる雰囲気为学校全体に広める。</p> <p>▲自らの目標に向かう充実した学校生活と人権意識を高めることで他者を気遣う心を育み、いじめが起きにくい雰囲気を作り上げる。</p>	
5 学校の抱える課題	<p>◇前向きな言葉と行動で、自らの目標に向かってチャレンジしていく雰囲気が足りない。自信と誇りをもって自分らしくのびのびと学校生活を謳歌できると良い。</p>	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒一人一人に規範意識と倫理観を体得させ、自主自律的な態度や行動を取ることができるよう支援します。 ・教育相談体制を充実し連携の強化を図り、全職員による相談体制を実践します。 	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
<p>(1) 登校指導であいさつを交わし、規範意識や安全意識が醸成できるよう定点観察を行い、必要なアプローチを全職員で行う。</p> <p>(2) 自分とは違う他者を気遣える行動を通して思いやりのある判断や、自らの強みを大切にできるような適切な言葉かけをしていく。</p> <p>(3) 支援が必要な生徒の早期発見とその生徒への適切な対応のため、常に意識を高く持ち小さな変化を見逃さないようにする。</p>	<p>(1) 学校評価アンケートの結果分析 交通事故調査結果と地域からの苦情の分析</p> <p>(2) 心のアンケートと居心地度調査の結果分析</p> <p>(3) 保護者、生徒の支援状況（相談記録）</p>	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・交通安全指導、登校指導を実施。 ・年3回の教育相談週間を実施。 ・担任会、教科担任会議等で情報の共有を実施。 	<p>① 交通事故が減っているか。交通安全への意識が高まっているか。</p> <p>② 心のアンケートや学校の居心地度調査を適切に分析し対応できているか。</p> <p>② 生徒、保護者に十分、適切な支援活動（教育相談・会議の実施など）ができたか。</p>	<p>A B C D</p> <p>A B C D</p> <p>A B C D</p>
12 成果・課題	<p>○生徒は落ち着いた雰囲気の中で学校生活を送っており、身だしなみについては生徒の節度ある自覚が見られる。この伝統を大切にしていきたい。</p> <p>○不登校や異動する生徒が増加したが、生徒や保護者に寄り添いながら丁寧に対応することができた。</p> <p>○自転車の交通マナーについてルールを守って交通安全に心がけている。1年生の交通事故が若干ではあるが減少した。高山警察署と連携することができた。</p> <p>▲いじめ対応は学校全体で情報を共有し、組織で対応することができた。しかし他者との関りに困難を抱える生徒が増え、不登校やいじめの認知件数が増えた。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・命、安全、仲間の大切さや社会で起きている現実を発信し、「正しく生きる」を基本に置き、自主的に意思決定・行動選択できるよう生徒の内面を大切にアプローチしていく。 ・支援が必要な生徒の早期発見とその生徒への適切な対応のため、常に意識を高く持ち、生徒の小さな変化を見逃さないようにし、迅速に情報共有を行う。 ・生徒支援部全体で担任・生徒・保護者への支援体制について継続的に検討・研究を行う。 		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不登校や異動する生徒の増加、他者との関わりに困難を抱える生徒の増加に驚いた。今後も減ることはないと思われるので、細かな対応が必要である。 ・交通安全において、自転車運転にはらむ危険性の認識（自分、相手）及び自分の命を守るためにヘルメット着用の指導や、自発光材の夜間早朝利用の啓発をお願いしたい。 ・不登校、いじめ認知件数が増えたことは悲しい。 ・SNSリテラシー教育が必要である。 ・電動キックボードの対応が必要である。
--

3 評価する領域・分野	◇特別活動	
4 現状の分析	○生徒会活動について、87%の生徒が活発に活動していると肯定している。 ▲コロナまん延時期に様々な工夫をもって取り組んでいたが、コロナが落ち着くとコロナ前の活動を判断基準として、新たなスタイルを生み出そうとすることに乏しい。	
5 学校の抱える課題	◇慣例的に物事に取り組み、新しいスタイルを生み出すことに弱い。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・集団活動への主体的参画と多様な他者との協働を目指し、行事を生徒中心に学校全体で取り組む。 ・学校生活の充実と新たな時代の創造を目指し、生徒会活動の活性化を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 集団活動への主体的参画と多様な他者との協働を目指し、学校行事を生徒中心に学校全体で取り組む。 (2) 学校生活の充実と新たな時代の創造を目指し生徒会が中心となって生徒の意見を取りまとめ生活指針検討会議に提案する。	(1) 行事後の生徒アンケート結果 (2) 生徒会による生活指針改定案の作成	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・各種学校行事や生徒会活動において、生徒が主体的に企画や運営に取り組むことができるよう資料提供やサポートなどを行う。	① 生徒の満足度は高いか。 ② 生活指針改定案の要望書が作成できたか。 ③ 職員が生徒活動を十分にサポートできたか。	Ⓐ B C D A B ○ D Ⓐ B C D
12 成果・課題	○生徒自身による学校行事の積極的運営が行われている。 ▲生活指針改定が進んでいない。	
13 来年度に向けての改善方策案 ・本校生徒会会則における改定のプロセスが分かりにくく、生徒の改定手続きにとまどっているため、生徒に具体的流れを示し、手続き等で躊躇することのないようサポートする。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動内容は新しいスタイルに乏しいかもしれない。（世代的にも） ・コロナ禍以前の学校生活を経験している生徒がおらず、以前と同じやり方で行事を行うのは難しい。現在の学校生活に合うように取組んでほしい。 ・もっと気軽に生徒の意見を集められるとよい（QRコードなど） ・新しい取組にはベネフィットの提供も必要である。

3 評価する領域・分野	◇保健厚生	
4 現状の分析	○新型コロナウイルス感染症対策について、マスク等で柔軟な対応が取られつつあるものの、感染状況としては大幅に増えることなく生活できている。 ▲校内の環境美化について、昨年と比べて改善はされたものの、清掃が行き届いていないと考えている生徒が多くいる。	
5 学校の抱える課題	◇与えられた役割は果たすことができるが、学校全体として目配り気配り心配りできる人物が少ない。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・生活習慣を確立させ生活リズムを整えるとともに、自主的な健康管理を促進する。 ・防災に対する意識の向上と危機管理体制の確立を図る。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) 基本的感染対策の徹底を推奨し、健康管理を意識づけるための掲示物を作成する。 (2) 命を守る訓練などを通して、自助公助の精神を養う。 (3) 公文書などによる情報発信を迅速かつ的確に収集する。	(1) 健康管理を呼びかける毎月の掲示物の作成 (2) 年3回命を守る訓練を実施 (3) アンケート等による運営状況の確認	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・全校体制で挑む掃除の実施、厚生委員を中心とするゴミ分別の点検等、職員を含む学校全体で環境整備をした。 ・目的を明確にした命を守る訓練の実施した。 ・保健だよりの発行をしたり、環境検査結果等の情報を提供したりした。	① 点検結果の考察したり、日常点検、ゴミの分別状況や環境検査結果の確認をしたりして環境改善に努めることができたか。 ② 十分な準備をして、適切な手順で命を守る訓練を行うことができたか。 ③ 保健だよりの発行でもって、時節に合った健康意識の啓発ができたか。	A B C D A B C D A B C D
12 成果 課題	○新型コロナが5類に位置づけられたことで戸惑いもあったが、行事等コロナ禍前の日常が取り戻せつつある。 ○命を守る訓練を今年度初めて保健厚生部が担当したが、滞りなく実施できた。 ・ ▲環境整備において職員、生徒ともに課題がある。	総合評価 A B C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・新型コロナだけではなく、インフルエンザ等も今年度は流行した。手洗いや換気等、基本的な感染症対策は来年度以降も継続して啓蒙していく。 ・命を守る訓練の内容を精査していく。 ・日常から環境整備に努めていくためにも、来年度は昼掃除を実施していき、公共施設で生活しているという意識を高め、誰もが過ごしやすい環境づくりを励行していく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内の環境整備について、自ら進んで取り組んでいこうという意識を育めるとよい。 ・校内の環境整備に進んで取り組むことができるように、家庭でも掃除する習慣づけが大切だと考える。 ・新型コロナウイルス感染症やインフルエンザは拡大することなく小規模で収まっていることはよい。

3 評価する領域・分野	◇渉外	
4 現状の分析	<p>▲文化祭（バザー）・マラソン大会が中止となった為、今後のノウハウの引き継ぎや行事の見直しについて考える必要がある。</p> <p>○PTフォーラムは従来の参集で行うとともに録画配信もあわせて行われた。また実行委員会は例年通り開催された。</p> <p>○有斐会においては総会、学年代表会共に参集により行われた。有斐会報については例年どおりの内容にて発行する予定である。</p>	
5 学校の抱える課題	◇コロナ禍でオンラインや録画配信が普及し、PTフォーラムなど、会場で参加して欲しい行事も配信を希望する声が多くある。両方行うことによる費用の負担も大きい。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・育友会・同窓会行事の中で、生徒と保護者・卒業生との関わりを提供し、多様な人間関係の中で深く幅広い学びの場を創出する。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組		8 達成度の判断・判定基準あるいは指標
<p>(1) 育友会や同窓会と連携し、よりよい行事实施の形を考える。</p> <p>(2) 行事の中で生徒と保護者・同窓生との関わる時間や場を設けられるように提案する。</p> <p>(3) 会報誌により育友会・同窓会の活動について広報し相互理解を深める機会を作る。</p>		<p>(1) アンケートによる保護者の満足度調査</p> <p>(2) 行事での保護者・卒業生と生徒との交流の場の設定</p> <p>(3) 会報誌の準備・発行・配付までの経過と内容に関する意見の分析</p>
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
<p>・外部との連絡を十分に行うための早めかつ計画的な運営。コロナ感染状況にも考慮し、オンライン等複数計画を立て、実施した。</p> <p>・参加意欲を高めるためのPTフォーラムの事前アンケートの実施と講師選考、進行方法を検討した。</p> <p>・各行事・会議について、引き継ぎの時間を設け、スムーズな準備・運営を図る計画を立てている。</p>	<p>① 準備・運営が迅速かつ確実に行えたか。</p> <p>② 事前アンケートの質問に答えられたか。また活発な意見交換ができ保護者の高い満足度がえられたか。</p> <p>③ 各行事の反省を関係各所と行い、次年度への課題について検討することができたか。</p>	<p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p> <p>Ⓐ B C D</p>
12 成果・課題	<p>○PTフォーラムは通常で開催となったが、昨年度のアンケート結果を受けて録画動画の配信も行い、好評であった。</p> <p>○育友会報は、育友会行事の中止で記事が少ない中、2回発行し、学校の現状を知らせる機会となった。</p> <p>▲育友会バザー、県外学校訪問の中止により、来年度に向けてのノウハウの引き継ぎに課題が残る。</p> <p>▲保護者学級委員には本来、行事の協力をお願いしていたが、コロナ禍による中止により役割が減り、選出の苦勞から不要論が出ていた。</p>	
<p>13 来年度に向けての改善方策案</p> <p>・育友会バザーの準備、当日の労力はたいへんなもので、全員未経験者で来年度行えるか大変不安である。コロナ禍が収束に向かっているとは言え、食べ物を扱う事に不安の声もある。育友会実行委員会では、これを機会に新しい取り組みについて検討中である。</p> <p>・「反省と提言」を受け、育友会実行委員会にて検討した結果、保護者学級員を来年度は選出せず、必要に応じて依頼する試みを行うことにした。</p>		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <p>・育友会バザーは保護者が負担に思うなら難しい。食べ物は、キッチンカーに依頼してはどうか。</p> <p>・育友会行事の引き継ぎはOBも協力する。</p> <p>・学級委員の業務が現在は不明瞭なこともあり、特に必要がなければ廃止してもよいのではないか。</p> <p>・オンライン配信は当たり前になったため、今後はPTフォーラム配信に係る費用負担をどうするか、視聴の有料化などの検討が必要である。</p>

3 評価する領域・分野	◇探究活動推進	
4 現状の分析	○外部講師の講演や様々な体験活動等、授業以外の学習機会や学校行事の実施方法等について、生徒の安全を最優先として適切に計しているかということについて行事という項目からの評価になると考えられるが、数値は高く、分掌としては様々な企画をしていることがつながっている。 ▲総合的な探究の時間の内容は自分にとって有意義であるかということについて、他の項目と比べると66.5%と数値は高くない。学年が下がるほど否定的な評価が高い。年間を通じてこの数値をみてみたいが、目標値をどの程度にしたらいいか。	
5 学校の抱える課題	◇様々な企画を呼び掛けても人が集まらない。	
6 今年度の具体的かつ明確な重点目標	・FRH（地域共創フラッグシップハイスクール）事業や、スクール・ポリシーに基づいた総合的な探究の時間の取組を推進します。 ・探究的な学びの充実に向けて取り組みます。	
7 目標の達成に必要な具体的な取組	8 達成度の判断・判定基準あるいは指標	
(1) FRHの取組や総合的な探究の時間の運用について、生徒一人一人の興味・関心が引き出されるような工夫をし、柔軟に推進します。 (2) 地域、外部機関と連携を取り、生徒の可能性を広げる工夫をします。 (3) 生徒が社会資源と接触できる機会を増やします。	(1) 各プログラムや学校評価アンケートの結果分析 (2) 生徒のレジュメ、プレゼン内容 (3) 外部講師による講義や学校外活動の充実	
9 取組状況・実践内容等	10 評価視点	11 評価
・探究学習に関する大規模な相談会や（外部講師約40名）、外部講師による講話を実施した。 ・1年生の探究的な学びの充実（地域自然探究、地域歴史探究）を図った。 ・2年生の探究的な学びの充実（個人で自由なテーマに取り組む）を図った。 ・1年生人材育成プログラム（飛騨地区内外で活躍する方々の講話と交流）を実施した。	① 生徒の様々な興味関心に対応する相談会や講演会を実施することができたか。 ② 生徒の感想に、前向きな姿勢や、成果が感じられたか。 ③ 生徒の進路選択や進路実現に「総合的な探究の時間」等の学びが生かされているか。	Ⓐ B C D A Ⓑ C D A Ⓑ C D
12 成果 ○昨年度に比べて、探究学習を推進することができた。また地区内の外部機関の協力を得て、地域の方々に本校の探究学習に関わっていただくことができた。 ○地域内外の方々の協力のもと幅広く学び、新たな気づきの機会を作ることができた。 ・ ▲探究学習を進める上で参考になる地域や学校企画の活動に、もう少し全体が積極的に参加できると良かった。 ▲多様な探究テーマに応じた指導のあり方		総合評価 A Ⓑ C D
13 来年度に向けての改善方策案 ・探究学習を核に学校外での取組等にも積極的に関わっていけるような工夫をしていく。		

II 学校関係者評価

実施年月日：令和6年2月8日

<p>【意見・要望・評価等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・探究学習を進めていくうえで、もっと気軽に大人と関わることができると良い。 ・地域や学校企画の活動に生徒を集めることができる工夫が必要である。 ・進路にもつなげる工夫が必要である
--